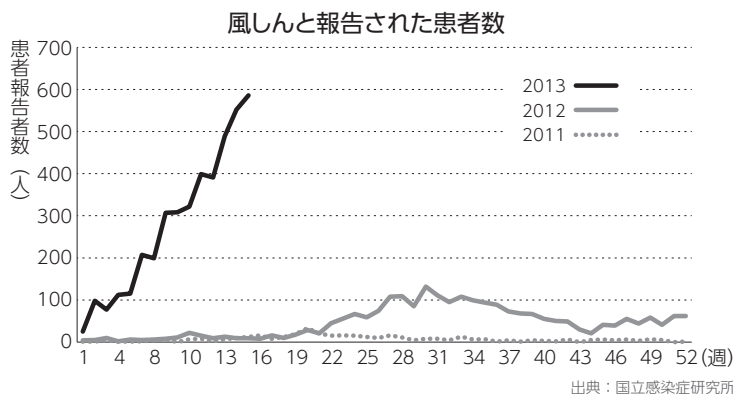


### 風しんが流行しています

風しんが広く流行し、平成20年以降で最も多い患者数となっています。

特に関東地方や近畿地方が中心ですが、他の都市でも増加傾向にあります。流行の中心は、20代～40代の男性です。平成23年の国の調査では、20代～40代の男性の15%が風しんへの免疫がなく、女性の15%は免疫がないか、免疫が不十分な状況でした。



### 防ぎたい「先天性風しん症候群」

風しんは、発疹、発熱、リンパ節の腫れを主症状とし、通常は、自然に治る感染症です。

ただし、風しんに対する十分な免疫を持たない妊娠初期の女性が風しんにかかると、赤ちゃんの耳が聞こえにくくなったり、心臓に奇形が生じる、目が見えにくくなるなどの障害（先天性風しん症候群）が現れる可能性があります。

### 予防接種

- 定期予防接種…… 1歳から2歳・就学前1年間の幼児
- 任意の予防接種……以下の方で、免疫が十分と確認できた場合を除き、任意の予防接種を検討しましょう。
  - ①妊婦の夫や家族（※妊婦は風しんの予防接種を受けることができません。）
  - ②10代後半から40代の妊娠する可能性の高い女性（※予防接種後2ヵ月間は避妊が必要です。）
  - ③出産後早期の女性
  - ④成人男性で、風しんにかかったことがない、又はワクチン接種を受けていないか不明な方は予防接種を検討しましょう。（2回接種しても問題はありません）

#### 風しん定期予防接種の状況

生年月日	1回目接種時期	2回目接種時期
昭和37年 4月以前生まれ	実施なし	実施なし
昭和37年 4月～昭和54年 4月生まれ	中学生女子のみ	
昭和54年 4月～昭和62年10月生まれ	中学生男女 (あるいは6歳までにMMRワクチン)	
昭和62年10月～平成 2年 4月生まれ	7歳半までに (あるいは6歳までにMMRワクチン)	
平成 2年 4月～平成 7年 4月生まれ	7歳半までに	高校3年生 (MRワクチン)
平成 7年 4月～平成12年 4月生まれ	6歳までに	中学1年生 (MRワクチン)
平成12年 4月～平成17年 4月生まれ	1歳～2歳までに (MRワクチン)	小学校入学前1年間 (MRワクチン)

※MMR：風しん・麻しん・おたふくかぜのワクチン ※MR：風しん・麻しんのワクチン

### ●ワクチンについて

風しんの免疫が十分でない方は、麻しんの免疫が不十分な傾向があることから、麻しん風しん混合ワクチンの接種をお勧めします。（それぞれの単独ワクチン接種も可能です。）

### 感染を広げないために

風しんは、患者の飛まつ（つばのしぶき）により他の人にうつります。

感染しても症状が出ない人が15～30%程度います。また、症状の出る前後の1週間は周りの人にうつす可能性があります。

風しんを疑う症状がある場合は、医療機関にかかる・無理をせず自宅で休む・やむを得ず外出する場合はマスクを着用し人ごみを避けましょう。